

Keiju Medical Center
public relations magazine

vol.92
2016.10

恵 Keiju 寿

先端医療から福祉まで「生きる」を応援します

―特集―

ナイチンゲールを
超える日

Florence Nightingale

―特集―

ナイチンゲールを 超える日

「あなた方は進歩し続けられない限りは、
後退していることになるのです。」

目的を高く掲げなさい。」

―フローレンス・ナイチンゲール (1820-1910)―

ナイチンゲールと言えばその献身的な仕事ぶりから一般的に「白衣の天使」として知られていますが、実は近代看護の礎を作り上げた「教育の母」、さらに統計に基づく医療衛生改革を行う統計学者や病院建築家という顔も持っています。著書である「看護覚え書」は今なお看護教育の場で読み継がれ、その精神は現代の看護師にも広く根付いています。

ナイチンゲールの没後から100年あまりの時が過ぎ、海外ではナースプラクティショナー(NP)が活躍しており、わが国でも専門看護師や認定看護師など専門性の高い看護師が活躍しています。また、一定の研修を終えた看護師が医師の判断を待たずに手順書により点滴や人工呼吸器の調節などが行えるようになるなど裁量権は拡大しつつあり、今後は医療の視点に加えて生活の視点の両面から地域を支えていく「ケアの専門家」として、看護職への期待はますます高まっています。

今回の特集は「ナイチンゲールを超える」ため、日々進化を続け、キャリアアップを目指す看護師をサポートする恵寿の取り組みについて紹介します。

恵寿の取り組み

看護師特定行為研修センターを開設

恵寿総合病院は、2016年8月、病院としては東海北陸初の「看護師特定行為指定研修機関」となりました。10月より「看護師特定行為研修センター」を開設し、「特定行為」の行える看護師の育成に取り組んでいきます。能登地域は全国でも医師不足・高齢化率が高い地域であり、制度の趣旨である救急並びに在宅医療の推進のために医師の包括的な指示のもと、一定の診療の補助(例えば脱水時の点滴など)を行う看護師を養成することが急務となっております。指定研修施設となることでこの問題の解消を目指しています。

— 特集 —

認定看護師

座談会

Certified Nurse Discussion

谷口 隆行
Taniguchi Takayuki

小崎 孝幸
Kosaki Takayuki

川江 辰徳
Kawae Tatsunori

船山 真理子
Funayama Mariko

ナイチンゲールのように、興味ある分野を追究し看護の質を高めようと意欲的に取り組む看護師が、恵寿にはたくさんいます。今回はその中でも男性の認定看護師3名をクローズアップします。全国の男性看護師が占める割合は6.4%、恵寿では8.7%と上回り、男性の認定看護師や看護管理者が活躍しています。教育担当であり、慢性呼吸器疾患看護認定看護師でもある船山真理子師長が、彼らの活動内容や役割、今後の抱負について聞きました。

院内外における認定看護師の活動

船山 男性ならではの思考で論理的に考えて解決できることや、力仕事の面ではやはり助けてもらっていて、現場からは頼もしいという声が聞かれ、恵寿の看護は女性だけでなく深みがあるような気がします。本日は、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の川江辰徳さん、救急看護認定看護師の小崎孝幸さん、手術看護認定看護師の谷口隆行さんに、お話を伺っていきたくと思います。まずは、それぞれどのような認定看護師なのか教えてください。

川江 私の役割は、脳卒中発症直後から在宅におけるまでその人らしい生活ができるように機能回復支援を行うことです。早期リハビリテーション・早期離床ができるよう看護にあたっています。

小崎 私は、主に救急の医療現場で緊急性の高い患者さんを洗い出して、その方を重篤化させないように、あるいは、生命に直結するような方が来院したときの初期治療に携わっています。さらには、災害時における急性期医療ニーズに対するケアにも関わっています。院内では急変時の初期対応の訓練なども実施しています。



谷口 私は、手術による体への負担を最小限にするために医師や看護師、多職種と協力して安全管理を行います。手術室の中だけでなく、手術前から手術後まで継続した看護を実施することが私の役割です。今年7月に取得したばかりなので、まずは教育課程で学んできたことを自部署で実践し、患者さんがより安心して手術を受けていただけるように、スタッフとできることを吟味していきたいと思っています。

船山 地域との関わりや役割については、どうでしょうか。

川江 昨今、脳卒中学会では、地域住民への脳卒中啓発活動が大変重要であると言われています。脳卒中は生活習慣との関連が強く、その改善が発症・再発予防に繋がります。先日、

Profile

プロフィール



谷口 隆行

Taniguchi Takayuki

手術室勤務 2010年入職

手術看護
(2016年～)

小崎 孝幸

Kosaki Takayuki

救急センター勤務 2003年入職

救急看護
(2014年～)

川江 辰徳

Kawae Tatsunori

HCU(準集中治療室)勤務 2007年入職

脳卒中
リハビリテーション看護
(2015年～)

船山 真理子

Funayama Mariko

教育担当師長 1994年入職

慢性呼吸器疾患看護
(2012年～)

認定看護師とは？

- ・ 高度化し専門分化が進む医療の現場において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護を実践できると日本看護協会が認める看護師です。現在21の認定看護分野が設けられており、看護師として5年以上の実務経験を持ち、日本看護協会が定める6ヵ月・615時間以上の教育課程を経て、認定審査に合格することで取得できる資格です。
- ・ 患者さんやご家族によりよい看護を提供できるよう認定看護分野ごとの専門を発揮しながら認定看護師の役割「実践・指導・相談」を果たして、看護の質向上に努めています。

参考：日本看護協会 <http://www.nurse.or.jp/>

地域の方に向けて脳卒中予防についてお話させていただきました。今後もこのような活動を行ってまいります。

小崎 院内のみならず、地域の企業や学校に出向いて講習を行い、心肺蘇生法の普及活動に努めています。

谷口 例えば、手術前の患者さんで喫煙している方は、肺の機能がよくないことが多く入院期間にも影響するので、そういったことに気付いて手術前から関わっていくことが少しずつ地域との関わりになっていくのかなと感じています。

誰にも負けないものを探して

船山 それでは、認定看護師を目指したきっかけは何ですか？

川江 看護学校卒業後1年目からICU(集中治療室)に勤務し多岐にわたる重症度の高い患者さんと接してきました。当時の師長から「何か一つ誰にも負けないものを見つけるといいよ」と言われ、脳卒中に関して独学で毎日勉強するようになりました。

た。しかし、その分野の勉強会は大都市圏へ行かなければならない現状で、もどかしさも感じている時に、船山師長から「認定看護師というものがあるよ」と伺ったことがきっかけです。

小崎 もともと手術室勤務でしたが、当時から救急領域にとっても興味があり、関連セミナー等に参加していました。当直の日に心肺停止で運ばれてきて亡くなった患者さんがいました。自分も悲しかったのですが、それ以上にご家族は途方もない悲しみに暮れているのだらうと思いました。こんな時どのように関わればよいのか、認定看護師であればどう対応するのだらうと、この体験がきっかけでより救急看護への思いが強くなりました。

谷口 看護師1年目から手術室に配属され、隣にいる小崎さんや先輩方に色々教えていただき、先輩方の知識や技術に近づけるように努力してきました。しかし、月日を重ねるごとに本当にこれでいいのかと疑問を抱くようになりました。そんな時に、

手術室師長から認定看護師を目指してみないかと声をかけられました。周りの協力もあり、目指すことにしました。



船山 恵寿では教育に力を入れているので、周りからのフォローや資金面のフォローもあり、心強いですね。

新たな挑戦へ

船山 さて、認定看護師になる前となった後で違いはありますか？

川江 新しい知識や技術を取得するため、学会出張や看護本などに費やす費用は大きくなりました。

小崎 疑問に思ったことはそのままにはせず、文献を調べた上で解決するようになりました。病態のメカニズムを理解し、医学的な知識をもって、看護にあたれるようになったと思います。

谷口 皆さんもそうだと思いますが、自身の発言には気を付けています。根拠に基づいて説明しなければ、相手は納得してくれませんし、どのように伝えたらいいのか色々考えるようになりました。恥ずかしい話ですが、以前は何も考えずに発言していたなと思います。いい意味でちょっと無口になりました(笑)。

船山 看護を行う上で大切にしていること、気を付けていることは何ですか？

川江 まずは自身の健康、そして患者さんとのコミュニケーションを大切にしています。患者さんはご高齢の方が多いのですが、その方達にとって私は子や孫にあたる年齢です。少しでも明るく、楽しく過ごしてもらえようと日々考えています。

小崎 緊急度・重症度の高い患者さんに迅速な対応をする中で、安心に繋がるよう笑顔・声掛けは欠かさずに行っています。救急現場においては、どうしても患者さんにフォーカスがあたりがちですが、家族への気配りもしっかり行うようにしています。

谷口 川江さんと同じで、コミュニケーションを大事にしています。手術前の訪問で、患者さんと少し話ただけでも信頼関係を築くことはできますし、それがなければ最良の援助には繋がらないのではと思います。あと私自身の看護観である「今、患者さんのために何ができるか」を常に考えています。

船山 それでは最後に、今後の抱負をお願いします。

川江 脳卒中分野は難しいと思われがちですが学び深めれば、大変面白い分野です。興味が持てる仲間を増やして、より横断的に協働しスキルアップができるよう活動していきたいです。また、若いスタッフが成長してきているので、その子達が自分を超越する看護師になってくれれば嬉しいです。



小崎 ようやくここ数年の間に、心肺蘇生法が浸透してきました。今後は心肺停止の患者さんだけではなく、心肺停止になる前のアプローチを強化し、急変対応の質の底上げを図りたいです。

谷口 自分の中で大切にしている言葉が「感謝」と「挑戦」です。地域の皆さんに育てられ、お世話になってきましたので、感謝の気持ちを持ち、次は私が地域の皆さんに貢献できるようにがんばります。

その他のスペシャリスト

恵寿の看護師が取得している資格を一部、紹介します。さまざまな分野で知識を深め、患者さんを看護しています。

○認定看護師

- ・慢性呼吸器疾患看護
- ・認知症看護
- ・がん性疼痛看護
- ・不妊症看護
- ・がん化学療法看護
- ・感染管理
- ・救急看護
- ・脳卒中リハビリテーション看護
- ・手術看護

○アドバンス助産師

- 糖尿病療養指導士
- 認知症ケア専門士
- 呼吸療法認定士

○NST専門療法士

- 臨床輸血看護師
- 弾性ストッキング
コンダクター など

額内科クリニック

内科

Profile

院長

額 浩一 先生

ぬか・こういち

1992年 3月 金沢大学医学部卒業
 1992年 4月 公益社団法人 石川勤労者医療協会
 城北病院
 2008年11月 加賀白山会板谷医院
 2011年 1月 額内科クリニック院長



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～ 13:00	○	○	○	○	○	○	/
15:00～ 18:00	○	○	/	○	○	/	/

休診日：水・土曜日午後／日・祝



〒920-0912
 石川県金沢市大手町9-13
 TEL 076-221-0377

今回は金沢市大手町にある「額内科クリニック」の額浩一先生にお話をお聞きしました。クリニックは街中にありながらも古民家を再生した温かみのある建物で、とても「金沢らしさ」を感じました。

一まず、クリニックがとても趣のある建物ですね。また待合室では鈴虫が鳴いてとても秋らしいです。

もともとここは上川医院という名のクリニックでした。昭和31年に開設されたそうです。この建物は15年ほど前だと思いますが、前の院長の上川先生が、小矢部に有った古民家を移築したそうです。鈴虫は患者さんから頂きました。3年ほど前から頂いていて、今年がそれが初めて卵から孵化したんですよ。

ここにきた経緯としては、上川先生が引退されるとのことで、後継者を探しておられ平成23年1月より私が引き継ぎました。

一話を聞かせていただきます。先生はどういったきっかけで医師を目指されたのでしょうか？またご専門の腎臓内科について。

私の父は普通のサラリーマンでしたが、父の中学の同級生に医師が多かった事から、父と同じ中学に入学する事をきっかけに医学部をすすめられ、医学部の道をめざしました。当時、医学部を卒業すると普通は医局に入るのですが、ローテート研修をしたかった私はその道を選ばず、城北病院（金沢市）に就職し研修を開始しました。ローテート研修では、内科以外にも、外科や小児科など色々な診療科を経験しま

した。専門の道を選ぶときは、最も興味のある科ではなく、自分として最も難解だった腎臓内科を選びました。当時の腎臓内科の指導医がなんでもできる人だったので、その先生についていこうとも思いました。

一クリニックの特徴についてお聞かせ下さい。

胃カメラも超音波も内科系のいわゆるプライマリ・ケア診療はなんでもみえています。この近辺は割と大きな病院が多いのでCTなどの診断機器や専門の治療が必要な方には極力紹介するようにしています。

また、往診や24時間電話対応もしています。患者さん宅に往診に行く以外に、老人ホームやグループホームにも往診に行っています。

一地域包括ケアについてのお考えをお聞かせください。

医師会の在宅医療に関する勉強会に参加していますが、2025年に向け在宅医療の需要が増え、試算によると金沢では往診専門の医師が足りず、既存のクリニックの先生方にも往診依頼をしなければいけない状況だそうです。

私自身、最近往診の件数が徐々に増えてきております。13～15時までを昼食と往診時間に当てていますが、だんだん昼食に割く時間が減ってきている状況です。今後は、診療時間を変更して対応しなければとも考えています。

一先生が心がけている点、また地域の皆様へのメッセージがありましたらお願いいたします。

一人ひとり丁寧に時間をかけて診療することを心掛けています。雑談が好きなので趣味のことを聞いたりして話し込んでしまうこともたまにあります(笑)。メッセージとしては、今後も在宅に力を入れていきますので、通院が難しい方がいらっしゃいましたらなんなりとご相談いただければと思っています。





かきざり

いつも笑顔の 看護部長を 目指します！

前大道 綾子

MAEOHMICHI AYAKO
【恵寿金沢病院 看護部 部長】

10月1日付けで恵寿金沢病院の看護部長職を拝命しました。主な仕事として看護部の勤務管理、人材育成（教育計画）、看護師のリクルート、入院基本料に関する書類作成を行っています。管理職になりましたが、当院の患者さんの中には私を見て喜んで話しかけてくださる方も多く、私も元気をいただいています。その患者さんたちのためにも笑顔を忘れず働きたいです。

物事の本質を見極める

管理職として、人を見る目、起こっている事実を冷静に判断する能力、社会の動向に目を向けて先を読む力など、物事の本質を見極められるよう努力します。まだまだ、今の仕事に対してやりがいを感じる域には達していません。ただ、患者さんから「この看護師さんは優しいね」と評価をいただくことも多く、この評価がもっと増えスタッフがいきいきと働く姿をみるのが私のやりがいに繋がっていくと思います。



【大切な仕事道具】
管理業務が増え、書類作成・チェックの機会が多くなったので、この「眼鏡」が欠かせません。



【前大道さんの職場】師長たちと一緒に。「よい看護はチームワークから」という思いで、師長たちと密に連絡を取り合っており、患者さんにスムーズに看護が提供できるようにしています。

恵寿金沢病院について

2014年7月、NTT西日本金沢病院が恵寿グループに仲間入りし、恵寿金沢病院になりました。血液がんの患者さんが全体の6～7割を占め、同種移植を除く、自家移植を含めた血液疾患治療を一通りできる体制が整っている血液疾患に強い病院です。

〒920-0910

石川県金沢市下新町6番26号

TEL：076-220-9192



かきざり かきざり

感謝の心を 大切に

林 泰範

HAYASHI YASUNORI
【シダックスフードサービス株式会社 名古屋支店
シニアマネージャー】

主な業務は各事業所間の橋渡し・パイプの役割を担っています。また、日々の食事に関する仕事として食材の供給・けいじゅデリカサプライセンターとの連携・厨房衛生の管理に携わっております。報告・連絡・相談を密接に行うことを心がけ、患者さん・利用者さんにより安心・安全な食事を提供できるクルーの育成、職場環境を目指しています。

「パートナー企業」として

委託頂いた年から1年半の間、恵寿総合病院事業所のマネージャーをさせていただきましたが、食事オーダーシステムの変更や新棟スタートなど目まぐるしい変化がありました。大変でしたが、恵寿グループの皆様・各事業所のクルーのおかげで自分の仕事を成しえると同時に多くのことを学べるよい経験が出来ました。体の半分はシダックスフードサービス株式会社で、もう半分は恵寿の一員と思い「パートナー企業」としてお役に立てる行動を心がけていきます。



【大切な仕事道具】
通称「緑カート」。保温効果抜群の食材運搬用カートです。けいじゅデリカサプライセンターと病院・施設をつなぐ架け橋的存在です。



【林さんの職場】
厨房は毎食、時間との勝負です。慌ただしい時も力を合わせて一生懸命仕事をしています。

シダックスフードサービス株式会社とは…

病院・オフィス・工場など各種施設の給食サービスの受託運営を行う企業です。

「けいじゅデリカサプライセンター」では、社会医療法人董仙会・社会福祉法人徳充会の全施設の給食を提供しています。

看護外来

恵寿総合病院では、6分野の看護外来を開設しています。

認定看護師、専門知識や技術、専門資格を持った看護師・助産師が

患者さんやご家族からの相談を受けたり、指導等を行っています。

- 認知症看護相談
- 腎症予防生活指導外来
- 呼吸酸素看護相談
- ストーマケア外来
- 不妊・更年期・思春期看護相談
- 母乳育児相談



お問い合わせ

けいじゅサービスセンター TEL (0767) 52-2300



社会医療法人財団 董仙会
(けいじゅヘルスケアシステム)

恵寿総合病院